

<五木村／住民>

日 時：令和2年11月2日（月）9時00分～10時30分

会 場：五木村役場2階大会議室

参加者：15名

【発言者①】

おはようございます。私は、竹の川区の〇〇といます。

まず、7月4日の豪雨で川辺川の支流、梶原川の氾濫により、竹の川の地区の橋や道路が決壊しました。

また、私が経営する店の宴会場も1メートルぐらい水位が上がり、被害に遭いました。

その原因といたしまして、数年にわたり土砂が堆積していたため、取り除かれなかったからです。

この梶原川は、全国的にも珍しい「川のり」が採れるところですが、土砂により数年の間採れていません。

また、溪流釣りの方も全国から訪れる川ですので、早急に川底の掘削をお願いいたしたいと思います。

また、竹の川の川辺川沿いの上流から下流にかけても、たくさんの土砂が堆積しております。そちらのほうの河川の掘削もお願いいたします。

また、私の自宅がある川辺川沿いの竹の川地区は、昭和40年頃、何度も水害の被害に遭っています。でも、かさ上げをしてから一度も水害に遭っていません。

最近、ダムの話が取りざたされていますが、川辺川流域の土砂を、下流域の河川敷の方たちの宅地のかさ上げの土砂として利用されたらどうでしょうかと私は思います。

私は、清流川辺川は日本一の川で、後世に残すべき財産だと思っています。五木村にとっても清流と観光が一体でないと、村を訪れる人は少なくなると思います。ぜひとも知事には村民にダムで混乱させる判断より、村民に寄り添った判断を望みます。よろしく申し上げます。以上です。

【発言者②】

今日は大変ご苦労さんでございます。

五木ダムが計画されておりました、これは川辺川ダムの副ダムとして建設が予定されて進められておりました。

しかし、知事の白紙撤回ということで、我々長い間、建設省の方々と職務上とはいえ、長年の歳月をかけて用地交渉、買収も終わり、これからというときに白

紙撤回ということで、本当にそのときは、「何それ」というような感じもいたしました。

今回も、ダム建設に反対する団体、個人的な方も大分おられるように思います。

自宅は水没し、被害を受けましたが、ダムが完全なものでない限り、やはりダムには反対をせざるを得ないというような意見があったように思います。まさにその信念と勇気は、感服に値するものと私は感じました。

私どものところは道路の整備も少ない、現在は穏やかに過ごしておるところでございます。

流域関係の皆さん方の意見が多様化するというのはわかりますが、私の感じとしてはそのように多様な意見、反対があるのを、進んで私どもがダム建設を進めるようなことはかえってしないほうがいいのではないかと感じております。

また、ダム建設に伴う環境の変化、騒音の問題、以前には私どももそれなりに若さもあり、覚悟もいたしておりましたが、今更、建設には非常に大きな疑問を感じております。

清流を眺め、静かな余生をこれから送っていければなど考えているところでございますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

### 【発言者③】

私は、五木村民生児童委員協議会の〇〇といたします。よろしく申し上げます。

今日は意見聴取ということをして伺っておりまして、時間も短いということですので、どういったことを説明したらいいのかなと思いながらちょっと迷っておりましたけれども、ひととおりの意見だけ述べさせていただきます。

私のところは、ここから大体17キロぐらい離れたところで、どちらかというところと五木村の東部で、球磨川水源のほうに近くなります。

ですから、今回の7月の豪雨のときも、やはり上流のほうでかなり水量があっております。

これは昭和38年から40年にかけての水害のときと、同じような雨の降り方というのとは、そういうのを経験しておりますので、今回ももう非常に危険を感じておりました。

山間ですので、隣近所というか、隣同士はかなり離れております。

ですから、みんなの命をどう守ったらいいのか、自分も実際は避難準備はしながらも、みんなの安否を気遣いながらやっとなという状況であります。

今回は7月4日の球磨川流域の豪雨災害から4か月になりますけれども、この会もほとんど毎日のように新聞沙汰になっておりますけれども、そのような中で蒲島知事が川辺川ダムも検討に入れるというようなことをおっしゃっておりますけれども、それは一番この五木村が該当する地域ではありますし、しかし、

今になってこの50年間なされてこなかったダムが、今ここに発表されたという、どういう意味があるのかということわかりませんが、私にはダムが出来ていいのか、悪いのかはわかりません。

ただ、現状として、やはり今回の災害を見ると、いかに人命・財産を守っていただけるのか。だから、被災者の生活再建というような支援、そういったものをやはり重点的に進めていただく必要があるんじゃないかと思います。

それとやはり道路状況というか、もう相当広範囲で災害が発生しております、不便な毎日を送っています。

ですからこういった復旧・復興、これを早急に対応していただきたい、そういう気持ちであります。

時間はちょっとわかりませんが、一応そういうことでダムも大事なかなと思いつつも、自然災害には勝てないかなという気持ちもあるし、非常に今、複雑な気持ちであります。

だから、とにかく急いでいただきたいのは復旧・復興、それから人命・財産の保護、先ほど少し出ておりましたけれども、今後よろしくお願ひしたいと思ひます。ありがとうございます。

#### 【発言者④】

はい。主任児童委員をしております〇〇と申します。よろしくお願ひいたします。主任児童委員の立場としての意見を述べさせていただきたいと思ひます。

また私のほうも3軒ほど身内が被害に遭いまして、そのお手伝いに行きながらいろんなことを感じたものがございまして、五木のこととそのことについてお話したいと思ひます。

あの豪雨のなか、避難した子どもたちはどんな気持ちだったのかと、今本当に思いました。手伝いに行ってあの状況を見たときに、この中を子どもたち、どんな感じで行ったんだろう、そして今どのような生活を送っているんだろう、これから子どもたちの心のケアが大切なのかなと思ひました。

また、復旧作業をしながら災証明書とかの手続きが、本当に大変でした。行政の方も初めて、私たちも初めて、その中で本当にどのようにしていいのかわかりませんでした。

今は、こういう世の中、いつ私たちも災害に遭遇するかわかりません。そのときのマニュアルというものをやはり、県のほうから、こういうときにはこう、こういうときにはこうというマニュアルを作っていただけたらと思ひます。

しかしその中でよく、ホームページで見てくださるのではなく、ペーパーで皆さんに示していただければと思ひます。

また、復旧の手が入っていないところで、治水対策の議論、そのなかで蒲島知

事が川辺川ダムを視野に入れた治水対策といわれました。

五木村はダム建設容認で子どもも減少、そして白紙撤回、今回また川辺川ダムも視野に入れた治水対策、ダムという2文字にまた翻弄されるのでは、五木村が衰退していくのではと危惧いたします。

この災害で地区によっては孤立したところもあります。

また、車での移動に平常の倍以上の時間を費やして買い物に行かなくてはならない、転出も頭をよぎると言われました。

この自然に触れ、五木村を愛している地域の宝物である子どもたちの未来のためにも、五木村の復興に今まで以上にご尽力をいただけたらと思います。終わります。

#### 【発言者⑤】

おはようございます。五木村消防団の〇〇です。

我々、消防団は7月の豪雨の際、各地区の被災状況の把握に出動いたしまして、そして先ほど言われた浸水被害とか、小規模土石流での家屋災害の対応を行いました。

幸いなことに、消防団としては人災はなく、喜んでおります。

今回の下流域の災害は豪雨災害による自然災害であります。先ほどから言われている知事による白紙撤回、そして、当時の国交大臣の前原氏により川辺川ダム建設が中止されてますが、まずは一つは政治的な災害ともいえると思います。そして、また今回の災害で、川辺川ダム建設が再燃されております。

川辺川ダム建設は下流域の人たちの生命財産を守る対策であって、五木村が村民を守る対策でなく、上流域も、五木村とか、そういうところの安全対策も同時に考えてほしいと思います。

五木村は人口も少なくなり、また消防団員も減少のなか、災害対応に困難が生じるため、まずは先ほどから言われている浸水家屋が生じないように、河川に溜まった土砂、流木等の撤去をお願いし、また非常時に必要な県道をどうしても使わなくてはなりませんので、復旧をお願いしたいと思います。

特に、県道久連子落合線の平沢津地区までが、いまだに通行止めとなっております。

一応迂回路はあるんですけども、相当な時間を費やしますので一日も早い開通のほどをよろしくお願いします。

土石流関係といいますと、予防策として河川の土石流防止のため、砂防ダムの増設、今もやっていただいていますけれども、まだまだ山も荒れていますのでその辺の対策をお願いします。

そして、先ほどから言っているように五木村は山間部であり、広範囲で消防団

員も少ないので、非常時に今回も携帯が通じないとかいうのがありますので、私はどういう対策があるかわかりませんが、そういう通信的な対策もお願いしたいと思います。以上です。

【発言者⑥】

川辺川ダム白紙撤回から12年、7月豪雨で今後の球磨川の治水対策に、知事さんは川辺川ダムを選択肢の一つと言われ、五木村民としては白紙撤回のときと同様に突然のことで、非常に戸惑いも強く感じておるところでございます。

12年前、突然の川辺川ダム白紙撤回の宣言で、五木村はダムの補償事業、それに関連したダム後の五木村の振興策、村民の生活再建などなど完全にストップしてしまいました。

五木村は、ダムによる国・県と交わしたあらゆる約束事は、村も水没者も100%果たしておりますが、川辺川ダムの凍結により、国・県はダム補償事業すらストップしてしまいました。

特に、五木村民の生命財産を災害から守るという五木ダムさえ工事は止まったままになっております。

しかし、そうした環境の中で、五木村は振興策と村民の生活再建を図るため、恐らくダムはもう出来ないだろうという認識の中で、水没地域の利活用も進められておるところであります。

五木村は川辺川を容認するまでの50年間、白紙撤回になって12年間、本当に翻弄され続けてまいりました。もうこれ以上は五木村の存亡にかかわるものであります。

知事さんをお願いいたします。

川辺川ダムを造る、造らないにかかわらず、今一度、ダムの補償事業、五木村の再建の振興策、村民の生活再建対策等々をご検討いただいて、五木村にぜひお示しいただきますようお願いいたします。

そのうえで川辺川ダムの是非について、判断していただければ非常に幸いです。以上で、私の意見といたします。

【発言者⑦】

今現在、頭地代替地におりますけれども、私は生活再建の一つとして、ちょっと私ごとになりますが、人吉の温泉街に貸家を持っておりました。今度の水害で全壊でございました。非常に今残念に思っております。

意見を述べるということになりますと、〇〇さんのほうからもお話があったなかに、ダブってしまうこともあるかと思いますが、よろしくお願ひしたいと思います。

新聞報道等を見ておられますと、いろんな方々の意見がある中に非常に同感したことが一つございます。

それは「治水対策の効果があるものは、全て実施する」というようなご意見が新聞紙上等で投書もあれば、記者さんたちの取材に応じてそういう言葉が書いてありました。

私は、この治水対策に効果があるものは、全て実施するということは全く同感でございます。

しかし、気になることが一つございます。それは再燃している川辺川ダム建設問題でございます。

知事さんの冒頭挨拶の中にもございましたけれども、ちょっとここを振り返ってみますと、平成8年10月に県知事さん立ち合いのもとに、五木村、相良村は下流域を水害から守るために、ダム本体着工に同意いたしております。

その後、知事さんにおかれましては、平成20年の9月県議会において、川辺川ダム白紙撤回、翌年21年には当時の国交大臣は、川辺川ダム中止を表明されておられます。

そういうふうななかに、翌年の平成22年ですか、五木村議会におかれましては、これを受けて、将来、川辺川ダム建設問題がまた掘り起こされてくるということになればというような気持ちがあって、村議会では次の世代を担う村民のために提言書を決議なさっておられます。

これは読んでいただければ内容はわかりなると思いますが、そういういきさつがございまして、さらに翌年の平成23年、先ほどあちらのほうから話も出ておりましたけれども、知事さんの五木ダム、建設中止表明がなされております。

こういったことを考えていきますと、私たちはこの川辺川ダムの知事さんの白紙撤回、それから当時の国交大臣の建設中止表明、村や村民にとっては本当に大変ショッキングなことございました。

それから年を重ね、12年目を今迎えております。

12年目を迎えておる中に、現在、村長を中心に、新しい村づくりのために、国・県の温かいご支援の中に、一生懸命取り組んでおられるさなかでございますし、私たちも頭地代替地あるいは他の代替地、水没予定地を移って、あれ以来、非水没地区の方々も五木村民は皆、やっと落ち着いて、穏やかな生活ができるようになってきたこのさなかに、またダム建設問題が再燃してきたということで、非常にまたこのことで、五木は振り回されていくのではなからうかなということで案じております。非常に心配いたしております。

このダムの建設で、造る、造らない、これで長引いてしまってくると、もう本当に五木は立つ瀬がないと思っております。

だけどダムを造るということも一つの方向性であろうと思いますけれども、ダムを造るということになってくると五木村にとっては、非常に課題も多ございます。

その課題解決のために、やはりまた今後取り組んでいただけるのかどうか、新たに要望する問題について、どう対応されていかれるのか、そこら辺を非常に心配いたしております。

課題とは何かということになりますけれども、先ほど〇〇さんのほうからお話がありましたが、このダムを造る、ダムがどういうダムか、やはり今は流水型のダムとか、貯水型のダムが論じられておりますけれども、どちらにしてもダムを造るということになってくると、心配されるのはバックウォーター付近の堆砂問題でございます。

特に竹の川の〇〇さんもおっしゃってございましたけれども、それから上流のほうはどうなるのか、そのために五木は要請をして、県営五木ダムを造ってくださいという、今申し上げてきた経緯がございます。

そればかりじゃございません。先ほど、〇〇さんのほうからお話がありましたように、県知事さん立ち合いのもとに、ダム本体着工は同意のときに締結いたしております。協定書、覚書、その他たくさんございます。

ダムを造るとするならばそういうものはどのように今後取り扱われていくのか、それも心配もいたします。

と同時に、先ほど話がありましたように、水没予定地内に暫定利活用で整備されておる、この施設はどのようなふうにならざるか、ダムを造るとすれば。

さらにダム湖が出来るということになってきますと、ダム湖周辺環境整備事業とはどのような内容のものになっていくのか、村の要望は取り入れていただけるのかどうか、そこら辺のことも心配でございますし、さらに数々あるわけですが、もう一つ例を言いますと、お願いするとすれば、今中途半端になっておる村道付け替え、右岸道路はどのようなふうにしていただけるのか、ダムを造ることになってくると、じゃ村道は造るというのが今までのいきさつ上、当然そういう回答が返ってくるはずでございます。

そこら辺のこともありますし、考えてみればもういろいろとまた問題、課題が出てきますが、そういった点については、ダムが造られるということになってきますと、知事さんのお力を十分お借りしながら、国・県、またいろいろと対応していただきたいと、村の振興のために。そういったことを特にお願いしておきたいなど。

ダムを造る、造らない、賛否両論あります。これが長引いてきますと、五木は本当に立つ瀬がないと思います。そこら辺のこともくれぐれもよろしく汲み取

っていただいて、今後対応していただきたいと思っております。

いずれにしても、五木村にとっては、このダム建設問題が再燃してきたということは、非常に注目いたしておりますし、造られるということになれば、先ほど申し上げましたようなことの対応も、よろしくお願いを申し上げておきたいと思っておりますし、五木ばかりではございません。一番やはり、考えていかなければいけない被災に遭われた方々のことを考えれば、いつときも早いこの治水対策の方向性というものは、出していただく必要があるのではなかろうかなと。

特にそれが、もう五木村にとりまして、被災者の皆さん方、流域の皆さん方にとりまして、このことの期待は非常に大きいと思っております。

かつて人吉は、九州の小京都というふうなことが言われてきました。今、人吉の町は夜通ってみますと、何か非常にゴーストタウンみたいな感じがいたしてなりません。早く明かりが灯せるような人吉のまちづくり、人吉ばかりじゃございません。球磨川流域の地域振興策を早く図ってあげる必要があるのではなかろうかと思っております。

そういうことで私は一村民として、知事さんには特にお願いしたいなというようなことでございます。

キザなことを申し上げるかもわかりませんが、「水を制するは国を制する」とあります。知事さんにはぜひ頑張ってくださいたいと思っております。以上でございます。

#### 【発言者⑧】

私は、五木湯前線、竹の川の入口から2キロのところの梶原川の側に住んでおります、〇〇です。

私も、前回8年前でしたか、それと今回の人吉の豪雨で、2回の災害を経験しました。前は川の近くにあった倉庫は流失し、家は床上浸水でした。今回は床上浸水でしたが、まだ水害の怖さは十分身に染みております。

そこで私の考えですが、私は河川にできるだけ土砂とか流木を出さない対策をとということです。

私の近くで言いますと、梶原発電所の上流、左岸側ですが、普段は何でもない谷というか、迫なんです。大雨とか豪雨になりますと土砂を噴き出し、流失しています。こういうところは五木には何十か所とあると思っておりますが、治山対策事業で県が造っていただいております谷止、砂防ダムというのか、名前のほうは私よく知りませんが、谷とか沢に必要なだと思えるのは多く作っていただきますと山の崩壊とか土砂の流出には大変大きな効果があると思っております。

前回の災害で、地滑りとか山の崩壊の跡がまだ残っているところがあるように聞いてます。そういうところでは治山工事とか山腹工事が必要ではないでし



ようか。

今回のような7月豪雨が来ますとどうしても上流での山・谷・川でのしっかりした確かな治水対策がなければ下流域の災害被害は防げない、なくならないと思います。

そこで私は治水だけではなく治山対策もしっかりと考えてもらいたいと思います。私の意見でございます。よろしく申し上げます。

#### 【発言者⑨】

五木森林組合の〇〇と申します。

本当に、五木は林業の村でございます。もう本当に死活問題になりまして今度の災害におきましていろいろ林地の崩壊、それに土砂流出に対しても治山事業を本当に拡大して再発防止に努めていただきたいというふうに考えております。

それもこの7月豪雨から8月の中旬まで道が寸断されまして、本当に山の仕事、これは本当に今、補助金をもらっている仕事がほとんどできておりません。歩いて2時間ほど行かなければその現場にたどり着けないという状況が頻繁に起きて、我々、整備をどうしようかこうしようか本当試行錯誤しました。

もう、治山事業についても我々、力を入れていきたいと。やはり砂防をどうか造っていただきたい。今後、治山事業の中で砂防というものが重要になっていくんじゃないだろうか我々は思っております。まずそれを一つお願いしたい。

二点目としまして、作業道に災害が起きております。国庫事業の中で復興工事が可能となったんですが、やはり通年対応して継続してやっていただきたいと私は考えています。

また、森林整備の中でも管理面だけでなく、整備の要件緩和をぜひ継続していただきたいなというふうに思っております。これが五木村の林業の再生じゃないだろうかというふうに考えております。

それと県有林が五木には多く存在しております。やはり切り捨て間伐、林業の条件の緩和の継続もこれはずっとしていただきたいなというふうに思っております。これは本当に五木の林業として、実際一昨年、もう2年目になりますが林業大学を設置していただきました。これには本当に林業に携わる担い手の育成も、十分発揮できるんじゃないだろうかというふうに考えておりますので、その辺も含めて考えていただきたいというふうに思っております。

それと国土保全で治水効果の工事を、これはあるんですが、今回コロナの影響で村からは補助金のかさ上げ、実際ありましたのは68%ですが100%になるようにコロナ対策で村のほうから援助いただきました。

ぜひ、県のほうもこの補助事業に対して100%のかさ上げをお願いしたい

なというふうに思っておる次第でございます。

あと、継続支援として森林整備ですが、国土保全、治水治山、保水力の向上のため、還元のことも十分に考えておりますので、それにはどうしても整備員の不足、担い手不足これを本当に解消できるような対策を考えてほしいなというふうに思っております。私からは以上でございます。

【発言者⑩】

農業委員会の〇〇です。よろしく願いいたします。

今回の豪雨で農地への土砂流入とか用水路の欠陥とかそういう所が何カ所か出てきてまいりますので、早期の復旧をお願いいたします。

それから五木村は国道445号と県道25号線が主要な道路です。特に25号線などは道路の欠陥が多数発生していくと思われます。早期の復旧をお願いいたします。

また、生活道路も人数と作業でも大変な被害が出てます。その点も、よろしく願いいたします。

それから今は、道路なしには観光、農業もできませんので、特にこの付近は農業関係も観光地もかなり密接な関係がありますので、道路の復旧は早期にしてくださいと思います。

それから皆さんも土石の堆積のことを言われますが、私も川辺川筋において、人の目にも分かるような土砂が溜まってますね。膨大な土砂だと思ってるんです。

溜っているのは搬出以外方法はないと思うんですけれども、次の洪水がくるとまた、川辺川本流・支流に堆積していくと思います。早期に撤収を。〇〇さんも言われたんですけれども、治山、砂防ダムこういうダムの上流部分での土砂が、本流川辺川に流れ出ないような対策を取っていただきたい。

実は私たちの部落は平成24年7月12日、阿蘇で大規模な災害がありましたよね。あれと一緒にの時期に3時間くらいずれて私ども部落は土砂流入がありました。

普段は一滴の水も出ない沢が氾濫して、結局住宅3軒、集会場1軒全壊。集会所はなんとか復旧しました。上の部落のほうも3軒あるんですけれども、そこも土砂が流出して結局11件、家と農地全部浸かってしまいました。大変な思いをしたわけです。

そこで国交省の依頼がありましたので調査に行きました。すごいもんでしたそれは、めっちゃめっちゃに。底辺りはもう掘れて、これはどうするというところで話し合いながら、砂防ダム作らないとどうにもならんということで現在3基作って来年度完成の予定です。(聞き取れず)を含めて。

今まで3回大雨があったんですけれども一番上流の砂防堰堤に、3分の1くらい溜まってます。これが砂防ダムでかなり防いでいるんだなという実績が見て分かりますので、早急に危険な流域に砂防ダムを作らんと土砂と水が下流に流れますから、水が流れると思うんですよ。

どこかで止めないと、また次のことが、異常に起こりますから、そういう点も考慮しながら早急に危険な物の、土砂流出を防げたらいいなと思ってますので、県のほう、国のほうでもどうかよろしくお願いいたします。以上です。

#### 【発言者⑪】

おはようございます。商工会から〇〇と申します。

私は一応商工会からということで五木村では人的被害はなかったんですけれども家屋の浸水、家屋の土砂流出とか建物、車の流出などの被害を受けております。

私もその一人ですけれども、個人的には23年にも作業場や車の全損も受けております。五木村のような急峻な山間地では、すり鉢状のところに家屋が建てるのが悪いのは間違いないですけれども、豪雨による被害を直に受ける状況になっていると思うとですよ。

現在、五木村の商工業の状況は、ダム計画での人口の流出に加え、少子高齢化で人口が1,000人いない、熊本県内で最少人口にあたるため、商工業も疲弊しています。

熊本県で五木村にも振興条例を定めていただき、五木村の振興に尽力をいただいています、人がいないのであります。

このような災害が発生し続けると、また人口の流出が加速しかねないので、一刻も早く、流域の安心安全の暮らしができる治水・治山対策を講じてほしいと強くお願いします。

最後に、私個人の今回の被害者の一人として、少し意見をちょっと言わせていただきたいと思います。

今私は、仰烏帽子山の入り口の元井谷というところにいますが、そこ自体が今最初にあった、〇〇さんと一緒に川幅がもう谷ですけれども普段はおとなしいんです。ちっちゃい川です。水も大して流れないような。ところが8年前も水の量が半端ではなく、一応我が家の下まで水が上がって全部流れたんですけれども。今度はそれ以上あって、とにかく仰烏帽子山から家まで昨日も行ったんですけれども、かなり荒れて掘れてます。道が通れるような状況ではないです。

でも、個人的にはとにかく、砂防自体はあるんですが、でもそれが出来た時点で何もされていないんですよ。だからもう溜まるだけ溜まってその上を水と土砂とかへドロとかと一緒にくるもので、それが全部下に来てますよね。だから砂

防自体の中を取ってもらったりするとか、それはどうしてもやってもらわんと。もう山自体の岩が全部むき出しです。やはりあのままいけばまた流出し、どうしても下に来ますので、一番下に住んでいますので、川幅がだんだん狭くなってきてますので。やはり砂防自体を取ってもらうことと、そして役場が作ってくれた橋があるんですけども、それも8年前に工事してもらったんですけども、それもまたオーバーしてきたもので、やはり3日ほど孤立しましたけれども、その橋自体が低いのでどうしてもそこに詰まって水が溢れて来るんです。上まで上がって。希望とすれば橋を上げてもらうようにして、それと今チツソさんがあります、元井谷の入り口には。するとあそこの砂利とかもやはりある程度上まで取ってもらえればというふうに思います。一応私の意見としては、お願いします。

#### 【発言者⑫】

観光情報センターの〇〇と申します。並びに、昨年4月にオープンいたしました溪流ヴィラITSUKIもいたしております。もともと溪流ヴィラITSUKIは水没予定地に建設をされておりますので、今回の豪雨の状況を見て、ダム建設の話がもう一回立ち上がるなというのはその場で意識した、というのが現状です。

私は鹿児島出身で、まだ五木村に移住して2年経ってないところで、五木村からするとよそ者という立場でこの五木村を見て取り組んでいるんですけども、大変素晴らしいところでして、主産業の林業、農業に次ぐ観光というのは五木村にとってはなくてはならない産業だと思っております。今後の五木村にとってはかなり重要だと考えております。

ダムに関しては、もう私の立場からしては賛成、反対とかいうものではないですし、言う権利もありません。2年経っておりますので、もちろんダム問題の渦中にいたわけでもなく、今回の人吉・球磨地域の水害の被害を受けたわけでもありませんので、言う権利はないと思っております。

今、コロナ及びこの水害で、上期においては、溪流ヴィラITSUKIの観光業にとって、ほとんど動けなかったというのがかなり痛手を被っております。営業できる日がかなり制限されておまして、今後それについてどうしようかなと考えていたところではありますが、でも、こういうピンチというのは必ずチャンスに変えることができる、チャンスに変えるのは自分たち自身の力、努力だと思っておりますので、スタッフ一同必死になって、今、運営をしているところではありますが、幸いGOTトラベルキャンペーン等でお客さまも大変多くご予約をいただいております、実際、溪流ヴィラITSUKI、来年1月の週末はほぼ満室をいただいております、大盛況となっているんですけども、秋の紅葉シーズンにおいても道の駅周辺の観光客もかなり増えてきております。そういったな

かで、私たちとしては、もう目の前にいるお客様に対して精一杯のサービスを提供して、今回1回だけではなくて、2回3回と「第二の故郷、また帰ってくるね」と言っていたようなサービスを提供して、今後の五木村の観光事業を盛り上げていければというふうに思っております。

ですからダムが出来る出来ないにかかわらず、我々は目の前のお客さん、今、ご予約をいただいているお客さまに対して、100%、120%のおもてなしをして、五木村のファンになっていただける努力をするだけだと思っております。

今後ダム問題に関しては話が進んでいくことと思いますが、正しい情報を正しく判断していただいて、正しい方向性を示していただいて、それを正確に伝えていただければ、それを基に私たちはじゃ今度どうしていこう、こうしよう、ああしようというのを決めて、五木村の観光の発展に取り組んでいきたいと思っております。ただそれだけです。

#### 【発言者⑬】

老人保健施設じゃないんですが、高齢者施設の管理をしております、〇〇と申します。よろしく願います。

まずは川辺川ダムの事業が開始されたのが1966年ということで、ちょうど私が生まれた年になります。小さい頃から自然環境で育った私のほうもちょうど今年54歳を迎えまして、小さい頃は周りの大人の方がダム問題とかに関して議論をされてたのをかすかに記憶に残っている世代です。

小学校時代なんかは同級生が次々とその時期に転校して行って、小学校卒業した時点では、入学した時の3分の2ぐらいの生徒数しかいなかったというので、少し何か寂しいなという思いをした記憶があります。

既に五木村の場合、ダム建設に同意を表明していて、国では五木村の用地取得、家屋移転、代替地造成など、約98%ほど完了しているということを聞いております。ただ、ちょっと不安を感じていることがありまして、例えばダムを建設する場合、ダムの形状もたくさんあり、現在、自然環境をなるべく破壊しないダムの建設ができるのかというのと、2つ目ですが、ダムが出来た場合、その後のアフターフォローができるのか。例えば、先ほどから皆さんよく言われてますが、ダムに堆積した土砂の撤去とそういう資金の維持・管理等、そういうのがしっかり行われていけるのか。

あと、3番目、清流川辺川の名に恥じない清流の維持ができていけるか。よく耳にするのが、ダムが出来たおかげでヘドロが溜まったりとか、近辺で悪臭がするようになったりとか、濁りが昔に比べるとひどくなったとか、とれるのが遅くなってきたというお話を聞いたこともあります。

4つ目、ダムが完成した場合、先ほど〇〇さんも言われてましたけれども、観

光収入というのも村の大きな財政になると思ってます。観光収入を得るためには五木村の場合、普通の方が住む住宅、あと宿泊施設等を建てるような平坦な土地っていうのが少ないために、なかなか現在、観光収入の利益も期待できてませんし、ダムが出来たとしても期待できるのかどうか、ちょっとよくわからない不安があります。

5つ目になります。一番の不安というのが、やはり今後、五木村で生まれて成長していく子どもたち、それを支え続けていく親の方、もしくは大人たちが、今後五木村で安定した生活を送っていけるかというのが大きな不安になっております。ただでさえ五木村は高齢化率がほぼ50%に近づきつつあるなかで、少子高齢化の波も一番実感している村です。高齢化も急速に今進んでまして、例えばダム建設が決定した場合とかに、過疎化に拍車がかかることがないように、行政、もしくは村に何らかの支援策というのにも必要になってくるかなと感じております。私からは以上です。

#### 【発言者⑭】

私は宮目木谷というところに、上流に山と棚田を持っておりました。その下流に30年前ぐらい前に砂防ダムが出来まして、それにどンドンどンドン土砂が溜まって行って、そのときは止めてあるので土砂が溜まるのはそれは当たり前なことだろうというぐらいの感じで見えてたんですけども、それが毎年毎年どンドン溜まってきて、2年前、それから今回の、その上にあった私の棚田とワサビ田と山林と、その地域の方々の畑、棚田も全部埋まってしまいました。砂防ダムも今、いろいろ話がありますけれども、場所によってはそういう上流部にあるものが全部それに土砂が溜まって埋まってしまうようなところには、これはどうかなというふうに今考えております。ぜひこれは現状は見ていただきたいと思えます。

それを見て思ったんですけども、川辺川ダムも一応そういう話があってもし作るとすれば、大小は違いますが、五木村にもどンドン上流から土砂が溜まってきて、それを毎年溜まった分ずつ取り除かないことにはまた蓄積していくわけですので、ダムによってそれを10年、20年の単位ではなんとか防げるにしても、その単位で五木村はどンドン土砂に埋もれていくんじゃないかというふうに思います。それでダムはちょっと私は賛成は今のところできません。

それよりも川にある、今、五木にも4か所あります、野々脇、板木、神屋敷、宮園の横手、そういう堤とか、あとは今、新聞報道で出てますけれども瀬戸石ダムとか、逆にああいうのを全部一回流れをよくするように取っ払って、それで今、やっておられるような川底を下げるなり、両側の堤を上げるなり、そういうこと

もできないと川幅を広くして、その流れをオーバーしないような工夫をまずやっていた上で、最終的にダムの問題を考えればどうかなというふうに思います。

それともう一つですけれども、私は林業をやっておりまして、山で今、伐採をしております。それで我々が伐採するときを使う機械が、木材搬出用の重機を入れるときに、山に作業道、作業路を開設します。そのときに山を傷つけて道幅3メートルぐらいの道を入れると、そこに下流域に生活されている方や生活水を谷からとっている方からいつもお叱りを受けます。「お前たちが山荒らすもんで、水が出るたびに赤濁りする。それで崩壊する」ということで、もちろんそれもあるかもしれませんが、私が一番感じてるのは、鹿が相当増えております。中を歩くと、雑山の中で大きい木は立ってますけれども、中の小さい草や灌木がほとんど食い尽くされて、表面の土がむき出しで、降るたびにその表面を大雨のときなど削って、どんどんそれが川に流れ込んでおります。そして崩壊もそれでまた招く。これはもうどうにも調整ができないので、山から川に行くまでのその部分をどうにか考える、その鹿による被害も。そちらのほうの対応もやっぱり考えていただいたほうがよくはないかというふうに思います。それ3点です。よろしく申し上げます。

#### 【発言者⑮】

〇〇と申します。

私は前のほうのテーブルに座りたかったんですけども、一人だけ後ろなんですけれども、私は13年前に神奈川からUターンしました。その直後にダムの白紙撤回とかありまして、常会というのが毎月あるんですけども、そのなかで、「水没地の人は補償をもらっていいな」とか、そういう意見とかあるわけです。私がいるところは西のほうで、水没に関係ないところですけども、それと議会でもダムの話が繰り返し話されまして、私としてはもう、そういう話はどうでもいいというのは失礼ですけども、卒業してほしいなあとと思ってました。やっと卒業かなと思ったときにまたこのダムの話です。ですからゴタゴタというか、そういうのは避けていただきたいと思います。

それから〇〇さんとか〇〇さんからもありましたが、治水だけではなくて、やはり治山が大事だと思います。山づくりをするために、専門職の方を森林組合とか役場に採用していただいて、全国の災害を見てますと、杉山が崩壊してますね、大体。ですから広葉樹に変えていくとか、そういう山づくり、それを治水と合わせてやっていただきたいと思います。以上です。

(以 上)